

①地域医療の推進について（地域医療推進課）

1 入院患者見通し

将来人口は減少しても、入院患者は増加。
入院病床の確保が急務。

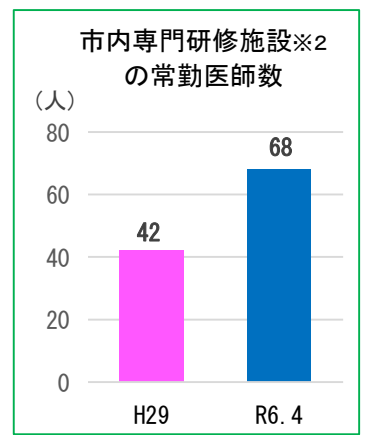
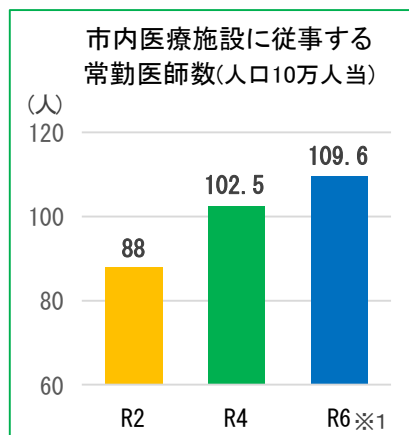
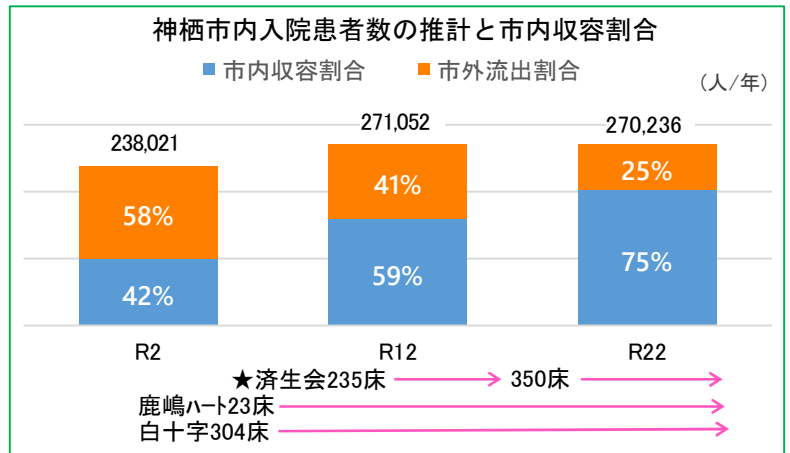
2 医療人材確保対策

【取組内容】

- ①医科大学との連携
- ②若手医師きらっせプロジェクトの推進
 - 教育研修環境整備・活動支援
 - 就業促進・雇用促進
 - 医師・看護師修学資金貸与と支援
 - 情報発信
- ③看護師・医療技術者支援
- ④看護職合同進学・就職相談会の開催



産業医トレーニングセンター
R6新規就業医師

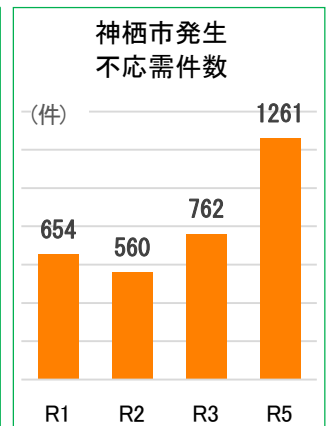
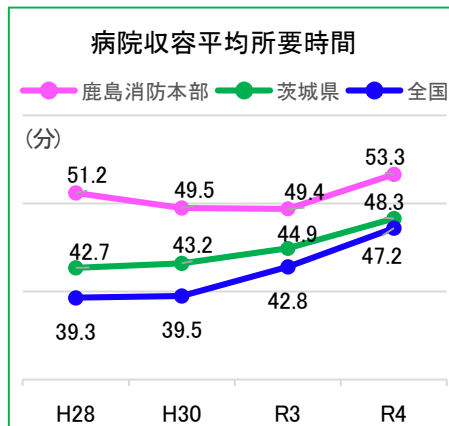


3 救急医療対策

コロナ禍で搬送時間の増、不応需の拡大
夜間の受入・労働災害の受入強化を目指す

【取組内容】

- 救急ワーキングチームによる課題改善策の
継続実施・強化
- 市内小児科の救急体制の見直し



4 体制整備

白十字総合病院の回復期・慢性期病棟建替

R6年12月完成予定
304床フルオープン・救急受入強化



鹿嶋ハートクリニックの病院化

R6年11月完成予定
特例病床4床／23床の病院化
緊急手術・循環器救急の拠点機能強化



神栖済生会病院新病院整備

小児科、整形外科、消化器がん診療等の急性期医療・救急医療の拠点病院

- ・ H30年7月 基本合意書に関する協定書の締結
- ・ H31年4月 再編統合
- ・ R元年7月 済生会土合クリニック開院
- ・ R6年現在 実施設計見合わせ中

新病院整備

ファーストステップ 235床程度
セカンドステップ 350床



神栖済生会病院への年平均支援額

H20～H29	159 百万円/年	10 年総額 1,591 百万円
H30～R5	320 百万円/年	6 年総額 1,917 百万円
		支援額合計 3,508 百万円

5 全員参加

産業医学基礎研修会

県医師会、市内企業の協力により実施
R2年以降 37都道府県 延べ3,143人参加

医療教育

教師の指導方針と医療従事者の知見を生かす
「命の尊さを知る」「弱者を思いやる心の育成」
「医療への関心を高める」

熱傷・薬傷症例検討会

労働災害に備え、企業スタッフと医療関係者が一緒に受講



企業・医療機関・行政連絡調整会議

医療体制の整備は産業都市の発展に不可欠



地方創生医師団と共催シンポジウム開催 令和6年10月13日～14日

- ・ 市民・企業・医療機関・行政等オール参加
- ・ 全国の医学生や若手医師、指導医等の参集

場所：かみす防災アリーナ



6 「第5回上手な医療のかかり方アワード」厚生労働省医政局長賞を受賞

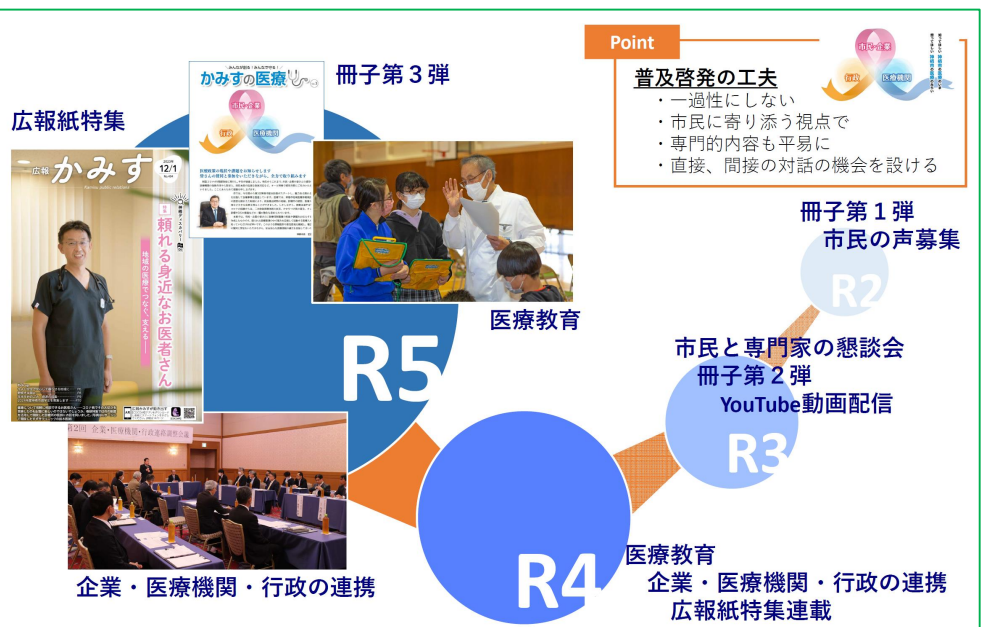
神栖市の取組みが上手な医療のかかり方につながる優れた啓発活動・取組として評価され表彰されました。

【取組名】

みんなが創る！みんなで守る！
かみすの医療プロジェクト

【取組概要】

医療を受ける側と提供する側が
双方向のやりとりを通じて、ともに考え、全員参加のもとに行動するプロジェクト。



②まちのにぎわいづくり事業について（政策企画課） ～波崎東部地域活性化基本計画～

1 波崎東部地域活性化基本計画の目的

令和6年3月に策定しました「波崎東部地域活性化基本計画」は、魅力的な地域資源や公共施設などを活用し、市内でも人口減少や高齢化が顕著な波崎東部地域（主に日の出町・豊ヶ崎・明神前）へ市内外から多くの方々に訪れていただくことにより、にぎわいを創出し、定住人口・交流人口・関係人口の拡大による地域の活性化を図ること目的としています。

2 主な整備内容

①波崎東ふれあいセンター用地



波崎東部地域の「交流・生活の場」としての役割を担う機能の導入を計画します。

【常設機能】

地域交流機能・防災機能

【仮設機能】

朝市や移動式販売等の飲食・物販機能

【将来導入検討機能】

医療福祉機能・飲食物販機能

②スケートボードパーク

豊ヶ浜運動公園内に、以前から多くの要望があるスケートボードパークを計画します。

スケートボードは、東京2020オリンピックの効果もあり競技人口が増加していることに加え、サーフィンとの相性がよく、海水浴場や周辺スポーツ施設との相乗効果が期待されます。



③波崎海岸砂丘植物公園



安心・安全に利用できる環境づくりによる地域住民の利用促進および公園の魅力向上を図ります。

駐車場出入り口の改良や遊歩道の再整備、海岸性植物の植栽、休憩スペースの設置等を計画します。

上記以外にも、計画の基本方針に基づき、当該地域の魅力向上を図るための検討を進めます。

③市営住宅建替事業について（住宅政策課）



令和6年度の主な工事概要

外構、歩道、側溝 工事 → **令和6年10月完成予定**

建築設計概要

- ・建物構造 鉄筋コンクリート造
- ・階数 3階（エレベーター設置）
※屋上は津波緊急避難場所として活用
- ・延床面積 3,269㎡（敷地面積 6,052㎡）
- ・住戸 3DK29戸 1DK21戸 計50戸
- ・その他 駐車場100台、駐輪場57台、
手動井戸ポンプ

事業費（令和4年度～令和6年度）

◎建築事業費（契約額）	1,481,721千円
○解体工事	245,784千円
○建築工事	1,217,216千円
○施工監理	18,721千円
※令和6年度発注の関連事業費（設計額）	
○歩道新設、側溝敷設替え工事	33,704千円

④雨水排水対策事業について（道路整備課・農林課）

1 波崎地区浸水対策経緯

波崎地区は、台風等の大雨による利根川の増水、潮位の影響、既設水路の能力不足等により、浸水被害が発生しています。

無堤防地区であることから、堤防の早期完成に向けて国土交通省・財務省へ要望活動を行うほか、国土交通省をはじめとした関係機関と協議会などを開催し、利根川の治水対策の協議を継続しています。

2 神栖市独自の排水対策

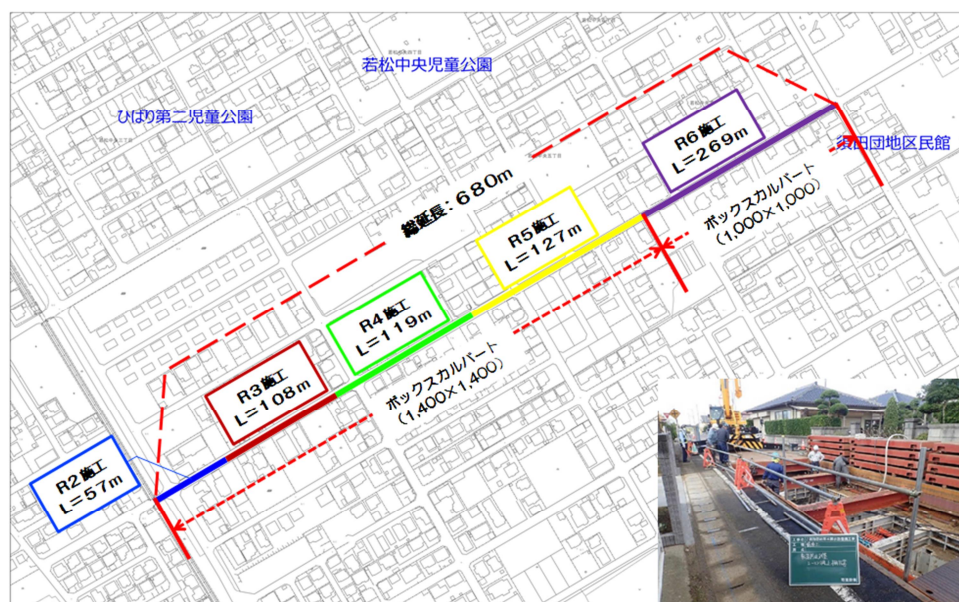
【本郷地区】

令和3年度から令和5年度にかけて、本郷地区に利根川からの逆流を防ぐフラップゲートを設置したほか、地盤の低い箇所へ内水排除のためのポンプ施設を設置しました。



【須田団地地区】

台風等の大雨による浸水被害の軽減のため、須田団地雨水排水路整備工事を令和2年度から整備開始しており、令和6年度で完了する予定となっています。



3 国土交通省で行う浸水対策工事（令和6年度）

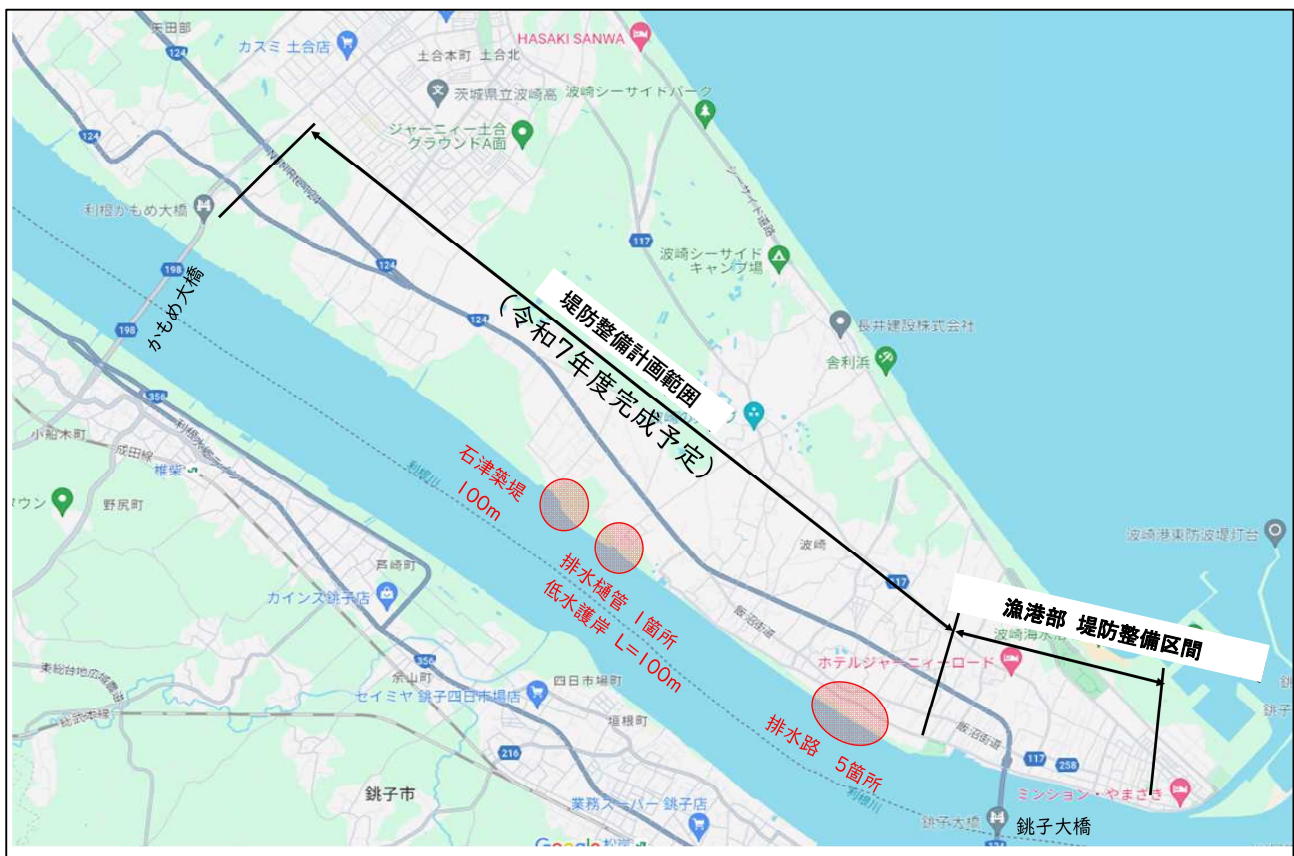
- (1) 別所地区（排水路） N=5箇所
- (2) 石津地区（築堤） L=100m
- (3) 荒波排水樋管
及び低水護岸 L=100m

○国土交通省で行う今後のスケジュール

利根かもめ大橋下流部の無堤防区間について、今後は、樋管及び堤防の整備を用地が確保された箇所から順次実施していく予定であり、概ね令和7年度の完成を目指しています。それ以降、河口部まで整備していきます。

○漁港部の堤防整備について

漁港部の整備については、堤防整備を計画に位置付けた後に、地域住民や漁港利用者の方へ説明し、調整が整った段階で堤防整備に着手していきます。



⑤災害等対策事業について（防災安全課）

1 津波避難施設の整備

令和元年度に実施した津波シミュレーションの結果を受けて、波崎舍利浜地区における津波から逃げ遅れてしまう可能性のある避難困難者の解消を図ることを目的とし、施設整備に向けて事業を進めます。



2 災害備蓄品（食糧・保存水・資機材）の購入

東日本大震災時の経験を踏まえ、現在の人口の約10%に当たる10,000人が1週間生活できる食糧・保存水を備蓄するほか、避難所運営に使用する資機材を整備します。

令和6年度につきましては、年度内に期限を迎える食糧（アルファ米、粉ミルクなど）及び保存水を更新します。

また、オストメイトの方の避難を想定し、福祉避難所に専用の仮設トイレを配備します。



⑥水道管（石綿管）更新事業について（水道課）

1 これまでの経緯

昭和40年代より水道整備が開始された波崎地域は、約20キロメートルにわたり石綿管（アスベスト管）が使用されていました。石綿管は、当時、鉄管より安価なため広く普及したのですが、他の配管よりも強度が弱いことから、より安全で快適な水の供給を目指して、石綿管をはじめとした老朽管の更新工事を実施し、令和5年度末現在において、約10キロメートルを耐震性ダグタイル鋳鉄管などの耐震管に交換しています。

更新工事には膨大な時間と多額の費用がかかることから、現在の石綿管更新率は約50パーセントに留まっている状況です。そのため、神栖市では令和元年度に水道施設更新計画を策定し、令和3年度より重点的な更新工事を実施しています。

2 今後の予定

現在は、波崎東部地域の大動脈であるφ300からφ250の石綿管の更新工事を集中的に行っており、令和8年度までに完了する予定です。

その後は、φ200以下の石綿管を順次更新する予定となりますが、細い道路や民地内に埋設されている場合、埋設位置の特定が困難な場合が多く、工事が難しくなることが予想されますので引き続き、皆様のご理解をお願いします。



3 近年の実績

実施年度	更新延長	工事費
令和3年度	923m	216,777,000円
令和4年度	411m	128,533,900円
令和5年度	740m	230,457,700円

4 事業位置図

